

材料力学 演習問題 第4週

提出 金曜日午後1時まで

4 - 1 . 長さ 2 m、直径 10 cm、内径 9 cm のステンレス鋼製パイプ (ヤング率 200GPa) がある。

(1) パイプの一端が天井に垂直に固定されてつるされており、他端には 5kN の重さの剛体フランジが取り付けられている。パイプに蓄えられる弾性エネルギー及び単位体積あたりの弾性エネルギーを求めよ。

(2) (1) のパイプにおいて、剛体フランジに 1m の高さから 5kN の荷重を有する剛体を落下したとき、パイプの衝撃応力を求めよ。

(3) パイプの一端を剛体壁に垂直に固定し、自由端に 5 kN の荷重を付加したとき、パイプに蓄えられる弾性エネルギーを求めよ。

(4) (3) の片持ちはりにおいて、自由端に 5kN の荷重を 1m の高さから落下したとき、衝撃時の自由端のたわみ ならびに最大曲げ応力 σ_{max} を求めよ。

4 - 2 . 高さ 10 cm、直径 5 cm のガラス製ロッド (ヤング率 70GPa) が床においてある。このガラスの圧縮時の破壊強度は $\sigma_f = 1GPa$ である。

(1) 安全率を $S = 10$ として許容応力 σ_a を求めなさい。

(2) このガラスの上面に、荷重 10kg の剛体を落下するとき、許容応力以下の衝撃応力となる高さ h を求めなさい。

3 . 両端を固定壁に固定されている長さ 2m のステンレス鋼製のはりがある。はりの断面の幅は 3 cm、高さは 2 cm である。ステンレス鋼のヤング率は 200GPa である。このとき、以下の各問いに答えなさい。

(1) はりの中央に 10 kN の荷重を付加したとき、はりに蓄えられる弾性エネルギー U 、はりの中央のたわみ ならびに最大曲げ応力 σ_{max} を求めなさい。

(2) はりの中央に 10 cm の高さから 10kN の荷重の物体を落下したとき、はりに蓄えられる弾性エネルギー U 、はりの中央のたわみ ならびに最大曲げ応力 σ_{max} を求めなさい。

解答例

4—1 .

(1)

$$U_s = \frac{1}{2} W = \frac{W^2}{2E} Al = \frac{W^2 l}{2EA} = \frac{(5 \times 10^3 \text{ N})^2 \times 2\text{m}}{2 \times 200 \times 10^9 \text{ N/m}^2 \times (0.05^2 - 0.045^2) \text{ m}^2}$$

$$= 0.0838 \text{ N m} = 0.0838 \text{ J}$$

$$u_s = \frac{U_s}{Al} = \frac{0.0838 \text{ J}}{(0.05^2 - 0.045^2) \text{ m}^2 \times 2\text{m}} = 28.1 \text{ J/m}^3$$

(2)

$$U = W(h + \delta) = \frac{P}{2} \delta \text{ より、 } W(h + \frac{\delta}{E}) = \frac{W^2}{2E} Al、 \quad \delta^2 - 2\frac{W}{A}\delta - 2\frac{WEh}{Al} = 0$$

これより、

$$\delta = \frac{W}{A} + \sqrt{\frac{W^2}{A^2} + 2\frac{WEh}{Al}} = \frac{W}{A} + \frac{W}{A} \sqrt{1 + 2\frac{EAh}{Wl}}$$

$$= \frac{5000 \text{ N}}{(0.05^2 - 0.045^2) \text{ m}^2} \left[1 + \sqrt{1 + 2 \times \frac{200 \times 10^9 \text{ N/m}^2 \times (0.05^2 - 0.045^2) \text{ m}^2 \times 1\text{m}}{5 \times 10^3 \text{ N} \times 2\text{m}}} \right]$$

$$= 87.9 \text{ MPa}$$

となる。

(3) 中立軸周りの断面 2 次モーメント

$$I = \frac{\pi}{64} (D^4 - d^4) = \frac{\pi}{64} (0.10^4 - 0.09^4) \text{ m}^4 = 1.69 \times 10^{-6} \text{ m}^4、 D : \text{外径、 } d : \text{内径}$$

より、曲げ剛性は

$$EI = 3.38 \times 10^5 \text{ N m}^2$$

B 点でのたわみ

$$\delta_s = \frac{Wl^3}{3EI} = \frac{5000 \text{ N} \times 2^3 \text{ m}^3}{3 \times 3.38 \times 10^5 \text{ N m}^2} = 0.0395 \text{ m}$$

より

$$U_s = \frac{1}{2} W \delta_s = \frac{5000 \text{ N} \times 0.0395 \text{ m}}{2} = 197 \text{ J}$$

(4) $U = W(h + \delta) = \frac{P}{2} \delta$ 、ここで、 $\delta = \frac{Pl^3}{3EI}$ より、

$$W(h + \frac{Pl^3}{3EI}) = \frac{P^2 l^3}{6EI}、 P^2 - 2PW - \frac{6EIWh}{l^3} = 0、$$

$$\begin{aligned}
P &= W + \sqrt{W^2 + \frac{6EIWh}{l^3}} = W \sqrt{1 + \frac{6EIh}{Wl^3}} \\
&= 5000 \text{ N} + \sqrt{1 + \frac{6 \times 3.38 \times 10^5 \times 1}{5000 \times 2^3}} \\
&= 5000 \text{ N} \times 8.19 = 40.9 \text{ kN}
\end{aligned}$$

同様にして、

$$\frac{Pl^3}{3EI} = \frac{Wl^3}{3EI} \sqrt{1 + \frac{6EIh}{Wl^3}} = s \sqrt{1 + \frac{6EIh}{Wl^3}} = 0.0395 \text{ m} \times 8.19 = 0.323 \text{ m}$$

$$M_{\max} = Pl$$

$$\sigma_{\max} = \frac{M_{\max}}{I} \frac{D}{2} = \frac{Pl}{I} \frac{D}{2} = \frac{40.9 \times 10^3 \times 2 \times 0.10}{1.69 \times 10^{-6} \times 2} = 2.42 \text{ GPa}$$

を得る。

4—2 .

$$(1) \quad \sigma_a = \frac{f}{S} = \frac{1000 \text{ MPa}}{10} = 100 \text{ GPa}$$

$$(2) \quad U = W(h + \frac{l}{2}) = \frac{P}{2} \text{ より、 } W(h + \frac{l}{2}) = \frac{P^2}{2E} Al \text{ だから、}$$

$$\begin{aligned}
h &= \frac{P^2 Al}{2WE} - \frac{Pl}{2E} = \frac{(100 \times 10^6)^2 \text{ N}^2/\text{m}^4 \times 10 \times 0.05^2 \text{ m} \times 2 \text{ m}}{2 \times 10 \text{ kgf} \times 9.8 \text{ N} \times 70 \times 10^9 \text{ N/m}^2} - \frac{100 \times 10^6 \text{ N/m}^2 \times 2 \text{ m}}{70 \times 10^9 \text{ N/m}^2} \\
&= 11.4 \text{ m}
\end{aligned}$$

4—3 .

(1) 固定端 A 点での反力を R_A 、反モーメントを M_A とすると、左右対称より、はりの中央に作用する荷重を W として、

$$R_A = \frac{W}{2}$$

であり、A 点から x の位置での曲げモーメントは

$$M_x = R_A x + M_A = \frac{Wx}{2} + M_A$$

となる。よって、AC 間のたわみの式は、固定端 A 点でたわみ、たわみ角が 0 であることを考慮して、

$$\frac{d^2 y}{dx^2} = \frac{M_x}{EI} = \frac{1}{EI} \frac{Wx}{2} + \frac{M_A}{EI}, \quad \frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \frac{Wx^2}{4} + \frac{M_A x}{EI}, \quad y = \frac{1}{EI} \frac{Wx^3}{12} + \frac{M_A x^2}{2EI}$$

となる。C 点でたわみは最大であり、たわみ角は 0 であるから、

$$\left. \frac{dy}{dx} \right|_{x=l/2} = \frac{1}{EI} \frac{Wl^2}{16} + \frac{M_A l}{2EI} = 0, \quad M_A = -\frac{Wl}{8}$$

であり、C 点でのたわみは

$$s = y \Big|_{x=l/2} = -\frac{1}{EI} \frac{Wl^3}{96} - \frac{Wl^3}{64} = \frac{Wl^3}{192EI}$$

となる。

ここで、

$$I = \frac{bh^3}{12} = \frac{0.03 \times 0.02^3}{12} = 2 \times 10^{-8} \text{ m}^4$$

$$EI = 200 \times 10^9 \times 2 \times 10^{-8} = 4000 \text{ N m}^2$$

より、

$$s = \frac{10000 \text{ N} \times 2^3 \text{ m}^3}{192 \times 4000 \text{ Nm}^2} = 0.104 \text{ m}$$

となる。弾性エネルギーは

$$U_s = \frac{W_s}{2} = \frac{10000 \text{ N} \times 0.104 \text{ m}}{2} = 520 \text{ J}$$

となる。また最大の曲げモーメントは固定端 A 点と中央の C 点で発生し、

$$M_{s \text{ max}} = \left| M_x \Big|_{x=0} \right| = \left| M_x \Big|_{x=l/2} \right| = \frac{Wl}{8}$$

である。これより、曲げ応力は

$$\sigma_{\text{max}} = \frac{M_{\text{max}}}{I} \frac{h}{2} = \frac{10000 \text{ N} \times 2 \text{ m}}{8 \times 2 \times 10^{-8} \text{ m}^4} \frac{0.02 \text{ m}}{2} = 1.25 \text{ GPa}$$

(2)

$$W(h + s) = \frac{P}{2}, \quad = \frac{Pl^3}{192EI} = P, \quad = \frac{l^3}{192EI} \text{ より、 } P^2 - 2W P - 2Wh = 0$$

これから、

$$P = W + \sqrt{W^2 + \frac{2Wh}{s}} = W \left(1 + \sqrt{1 + \frac{2h}{Ws}} \right) = W \left(1 + \sqrt{1 + \frac{2h}{s}} \right)$$

となる。ここで、

$$1 + \sqrt{1 + \frac{2h}{s}} = 1 + \sqrt{1 + \frac{2 \times 0.1 \text{ m}}{0.104 \text{ m}}} = 2.71$$

となる。従って、衝撃荷重は

$$P = 10 \text{ kN} \times 2.71 = 27.1 \text{ kN}$$

また、C点でのたわみも

$$= 2.71 s = 2.71 \times 0.104 \text{ m} = 0.282 \text{ m}$$

より、

$$U = \frac{27.1 \times 10^3 \text{ N} \times 0.282 \text{ m}}{2} = 3821 \text{ J}$$

を得る。また、

$$\sigma_{\text{max}} = 2.71 \sigma_{s, \text{max}} = 3.39 \text{ GPa}$$

である。